

乳製品需給等情報交換会議における御意見

東宗谷農業協同組合

- 生産抑制と今夏の記録的な猛暑の影響で、8月には生乳生産量が前年同期比▲10%と大きく減少した。このような状況で、バター不足に関する声が上がると、北海道としては供給責任を感じるが、脱脂粉乳がネックとなっている。脱脂粉乳の出口対策については現在議論中だが、10月には方針を固める見込み。
- Jミルクの需給見通しにもあるように今年度後半は分娩頭数が大きく減少する見通しであり、配合飼料価格も依然として高いなど、酪農家にとって非常に厳しい状況が続いている。
- ホクレンの生乳生産目標数量の399万トンを下回る可能性があることから、目標数量までは伸ばしたい。
- 生産抑制の背景として脱脂粉乳が課題となっていることについては、改めて生産者に理解してもらうことが重要。
- 噂話でバター不足に対する不安に拍車がかかることがないように、生産者としても責任をもって供給していきたい。

ホクレン農業協同組合連合会

- 北海道においても、猛暑の影響により8月の生乳生産量は前年比で9割を下回る水準まで減少し、これは年度当初に設定した抑制型の計画をも大きく下回る水準であり、今後は設定された生産目標数量の達成に向けて生産回復に努めて行くこととなるが、猛暑の影響は受胎率の低下等、次年度以降の生産にも影響が残ることも懸念される。
- 直近の生乳需給の見込みにおいては、生産量が前回見込みを下回る一方で、需要も低位で推移しており、需給改善までには至っていないと認識している。
- こうした状況の中でも、バターは堅調に需要が回復しており、今後の需要期に向けて需給はタイトな状況と認識している。
- 我々生産者側としては、需要のある国産バターを安定的に消費者やユーザーの皆さんにお届け出来るように生産に取り組んで行くことを望んでいるが、バターと脱脂粉乳の需要の乖離は依然大きく、何とか脱脂粉乳の在庫削減と需給改善に向けて様々な対策に取り組んできている。
- 今後、国産バターの安定供給のためには、経営環境の悪化や猛暑の影響を強く受けている生産基盤をしっかりと維持・強化をして行く必要があるが、平行してバター需要と乖離の大きい脱脂粉乳の需要拡大や在庫対策に取り組む必要もあり、これは生産者側だけで効果をあげられるものではなく、引き続き国や乳業者を初めとした関係者のご協力を頂きながら、一体となって取り組んで行かなければならない大きな課題であると認識している。

一般社団法人中央酪農会議

- 新型コロナの感染拡大に伴い、生乳需給が緩和傾向に転じるなか、生乳生産者団体では、ようやく増産傾向に転じた生乳生産の抑制を余儀なくされて来ている。
- 円安やウクライナ危機による生産コストの上昇により、酪農家の経営環境が悪化するなか、指定団体では、乳業者や消費者のご理解・ご支援の下、複数回にわたり、乳価の値上げをさせて頂いているが、指定団体の受託農家戸数は、例年3～4%程度のところ、直近の8月で▲7.3%と高い減少率が継続している。
- しかし、値上げに伴う需要減もあり、自然体では今年度末の脱脂粉乳在庫量は、7.6カ月分の高い水準に増加することが見込まれ、国の支援も頂きながら生産者も含めた業界の拠出による在庫削減対策にも取り組んでいる。
- 現在、食料・農業・農村基本法の見直しに際して、食料の安全保障が大きな課題となっており、国内で必要な消費量は、国産で供給して行く体制を構築して行くことが、本来のあるべき姿だと思われる。しかし、現状は、脱脂粉乳在庫が足枷となっていることに加え、年末にかけては処理不可能乳が発生する可能性もあり、生産抑制や在庫対策を余儀なくされている状況が継続している。
- 国内の乳製品市場へは、国産バターを安定供給して行けるような生乳生産の実現に資する方向で、酪農乳業に対する、引き続きの農水省からのご指導・ご支援のほど、宜しくお願いする。

一般社団法人日本乳業協会

(バターについて)

- バターについては、年末の最需要期に向けて各社製造を強化している時期ではあるが、生乳生産量の抑制と併せて、酷暑・残暑の影響で生乳生産量が想定以上に落ちていることと、8月からの再値上げにもかかわらず牛乳類の需要が想定ほどは落ち込んでいないため、計画よりも少ない製造となっている。暑さが和らぐ秋以降は、生乳生産量の回復に伴いバターの製造量も回復すると考えている。
- 需要については、今年4月の加工向け生乳価格の改定により、製品価格も引き上げられた家庭用バターは、前年を下回る数量で推移している。
- 業務用バターは、インバウンドの回復などにより外食、ホテル、土産菓子などでの需要が強く、好調に推移している。輸入バター価格は円安により高値を維持していることから、国産品の引き合いは強いと認識している。
- 供給の状況は、昨年度は国際相場の高騰に加え為替の円安により輸入バター価格が高かったこともあり、各社在庫品も含めて販売を強化した。
- 今年度は、在庫量は適正水準を維持できている為、販売強化ではなく、既存の需要を優先して安定的に供給としているところが多い。

(脱脂粉乳について)

- 脱脂粉乳は、生乳生産量の減少に伴い、製造量も減っている。生乳生産量が回復する見込みの下期は、製造量も増えてくると予想。
- また、需要は乳酸菌飲料や乳飲料の生産増加は見込まれるものの、全体的には増えず、為替次第では輸入調製品への回帰も考えられる。
- 従って、需要の回復が見られない中で製造量が回復に向かうと考えられるため、引き続き需給緩和状況は続くものと見込まれる。

一般社団法人Ｊミルク

- ８月の猛暑の影響により生乳生産量は大きく減少した一方で、飲用等需要は下支えされた可能性があるものと考えられ、需給動向はこれまで以上に予測が難しい状況にある。
- 乳製品向乳量は、生乳生産量の減少を主要因に年度では前年を下回って推移すると見通される。しかし、冬季には生乳生産量の減少率縮小と季節的な飲用等需要の減少から前年を上回ると想定され、脱脂粉乳・バター等向の仕向量も同様に推移すると見込んでいる。
- 脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスは依然として顕著であるなか、脱脂粉乳は在庫の積み増しを避けるべく、引き続き需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図るとともに、在庫削減対策に取り組むことが必要と考えている。
- バターは、業務用の需要が堅調に推移している一方で、家庭用の低調な推移、カレントアクセス内での入札数量の柔軟な運用や１２月に乳脂肪分側の生乳取引乳価が引き上げられることを踏まえると、在庫水準は概ね維持されるものと想定している。海外乳製品の動向や為替相場などの要因も需給に影響を及ぼすと考えられるが、引き続き消費動向を注視し、需要に対応した安定供給に努めることが重要と考えている。

卸売業者

【業務用】

（バターについて）

- １２月からの乳価改定、供給量をカットするメーカーも散見されており、国産バターからミドルファット、輸入バターへの置き換えや併用する実需者も増えると想定されるが、円安の影響もあり輸入バターも引き続き高値であることから、国産バターの引き合いが減るかは不透明である。
- 既に実需者も国産バターの供給不安には慣れており、国産、輸入を併用することで安定供給を図っているが、国産、産地指定を謳っている実需者の今後の動向が注視される。
- なお、国産乳製品の需要に反して、新製品などへの採用と配合も変更せざるを得ないと聞いており、一旦、大きくバランスが崩れると、何れ、また反転する環境を作ることとなる為、スピード感を持って需給バランスの改善を図って頂きたい。

（脱脂粉乳について）

- 前回より大きな変化はなく、現状、供給は潤沢な状態。都道府県生乳生産量4月～8月の累計が前年を割っていることから、来期以降は徐々に厳しくなると見ている実需者もあるが、バターのように脱脂粉乳が不足するとは認識しておらず、また、ほとんどの実需者は脱粉調製品などの置換えの体制は既に整っていることから問題視していない。

【家庭用】

- 市販用バターは前回報告同様、売場におけるバター欠品は無く、2023年のバター納品率は97%以上を維持しており、供給体制は問題ないと判断している。（2023年4～8月平均納品率：98.3%）
〔（※）「納品率」＝「小売店への納品数量」÷「小売店からの発注数量」〕
- 2023年4～8月累計、直近9月の弊社実績においても数量が前年並み、金額は前年比110%超で推移し、前回の報告時同様、堅調な動きを見せている。
- 直近では生乳減産、これから迎える需要期、市販用バターの値上げを考慮すると、この12月の需要期を乗り越えれば、年度内（2024年3月末）は欠品となる可能性は低いと予想している。
- ただし、原乳不足の継続、年末に向けての需要増、業務用バターの不足による家庭用需要増など、懸念を払拭できない状況である。

一般社団法人全国スーパーマーケット協会

- 乳製品を含む、スーパーマーケットの日配カテゴリー売上前年同月比は、22年10月から11か月連続で前年を超過。直近23年8月は、107.0%（既存店ベース）と全カテゴリーで最も高い伸び率となった。ヨーグルト含め、売り上げが悪いという話は聞かない。業務用の需要者が流れてこなければ家庭用が不足する心配はないと認識。
- 8月に牛乳をはじめとする乳製品では再値上げがあったが、記録的な猛暑により、買い上げ点数の減少幅は小さく、販売額は好調に推移した。
- 現在までのところ、バター等の欠品は報告されていない。

一般社団法人全国消費者団体連合会

意見なし

一般社団法人日本パン工業会

- 国産バターについては、下期（10月）より数量、価格ともに不透明な状況が続いている。
- 輸入バターについては、引き続きマークアップが高水準で、国産品より若干高価であるが、可能であれば、輸入枠は広げていただきたい。
- 国産脱脂粉乳については、在庫過剰感は薄れ、適正在庫と考えているが、昨今の生乳

量の減少を考えると、場合によっては不足感が生じる可能性もあると考えている。

協同組合全日本洋菓子工業会

- 当組合内の前月の調査で「現在バターが不足している」、「仕入先から供給に関する通知を受けている」等の回答があった会員を中心に、問診により改めて現況を確認したが、4割の組合員が「不足している」と回答する一方で、8割の組合員が「今後の供給に対して不安を感じている」と回答しており、状況に大きな変化はない。
- 仕入れ業者から、供給に関する何らかの通知を受けている状況も変わっておらず、全体としては前月より不安を感じている会員が多い。
- 当面の対応としては、価格面では割高ではあるが、やむを得ず国産品から輸入品への切り替えや輸入品の使用比率の引上げなど、輸入バターへのシフトが中心となっている。
- 他方、在庫を所持している会員が3割程度いることや、仕入れ業者を増やしたり、変更することでバターを確保している会員もいることから、在庫は市場の中に存在する可能性もある。
- 12月からの乳価引上げで、国産バターについても値上がりが見込まれることから、「量」「価格」いずれについても厳しい状況にあり、価格を含めた安定供給の早期実現を期待する。

一般社団法人日本洋菓子協会連合会

- バターが足りないといううわさが先行し、不安感を抱えている事業者に対しては、適切な情報共有を行い、不安感の解消に努めている。
- 小規模事業者向けのバター入札については、利用促進のために当会員に対して通達したたが、入札までの期間が短かったことに加えて、参加するために問屋に問い合わせても問屋が把握していない事例もあり、2社しか入札しなかった。取組としてはありがたいが、もっとPRを実施し、足並みをそろえる必要がある。

全国菓子工業組合連合会

- 菓子業界では、人流の回復に伴い需要が回復してきているが、各種菓子原材料や電力光熱費の上昇が経営を圧迫している。
- 乳製品の供給については、今後の供給に関する通知を受けている例があり、各種行事需要の回復、国内旅行客やインバウンド客の回復もあって、菓子需要の回復が見込まれる中で、バターの供給の不透明感が生産制約の要因になる可能性があることから、価格の上昇とともに今後の不安要因となっている。
- バター需要が伸びていることもあり、去年と同じ供給量では対応できない。需要があるのに、バターがネックとなり思うように生産できないことにジレンマを感じている。
- 菓子では国産バターを特色ある原料としているものも多く、輸入バターで代替できない需要も多く存在するため、まずは、国産バターの増産と安定供給をお願いしたい。

- 8月31日（木）には小規模企業者向けの輸入バターの入札を実施して頂いたところであるが、反応はあまりよくなかったと認識。国産バター需要が大きいことが原因ではないかと考えられる。
- 国産バターの急な増産が難しい場合は、代替可能な需要向けには輸入バターを使用してもらい易いように、輸入バターの価格引き下げに効果的な工夫をお願いしたい

（以上）